

住専勘定の二次損失について(平成8～19年度中間)

二次損失 9,675億円	2分の1 4,838億円	簿価超回収 2,066億円(注2)	} 損失補てん助成金 (政府の補助金の額の範囲内で 預金保険機構より交付)	
		2,771億円		
	2分の1 4,838億円	収納済助成金 1,237億円		} 基金助成金(注3) (金融安定化拠出基金より交付)
		未収助成金 3,752億円		

(注1)各数字は億円未満を四捨五入しているため、合計額が一致しないことがある。
(整理回収機構の貸借対照表、損益計算書は、億円未満を切り捨てて表示。)

(注2)国庫納付金35億円を除く金額。

(注3)不稼動資産にかかる借入金利息相当額に対する助成金151億円を含んだ金額。

<平成19年9月期住専勘定B/Sと参考図の「損失補てん助成金」との関係について>

当中間期の住専勘定の貸倒引当金（注）は4,294億円である。

一方、これまでの営業上の利益（「貸出金利息+資金運用利息+その他利益」「借入金利息+営業経費等」）を累計すると2,798億円となる。

との差額1,496億円が貸倒引当金に対する資金不足額となるが、これと参考図中の損失補てん助成金相当額2,771億円を合わせた4,267億円が住専勘定のB/S上の繰越損失となる。

また、繰越損失額と資本金2,000億円をネットした2,267億円が当中間期における住専勘定の債務超過額となる。

（注）貸倒引当金は、個別債権の状況等により、回収不能となった場合に備え、見込み額を計上したもの。

なお、RCCは国民負担の最小化のため、回収等に最大限努力を行っているところであり、今後の回収状況次第では貸倒引当金の戻入が発生しうることから、当該引当金相当額の貸倒れが確定しているものではない。